

国際派日本人養成講座

人物探訪

平成20年7月6日付け

稲塚権次郎とポログ博士

一粒の種子が世界を駆けめぐり、世界を変えていった。

1. 稲塚権次郎とポログ博士

平成2(1990)年6月1日、富山県西部の農村部・南砺市にある南砺農業会館で、一人の白髪長身の年配の白人が、500人ほどの聴衆に語りかけていた。

アメリカの農学者ノーマン・E・ポログ博士である。博士は収穫量が従来の2、3倍もある新しい小麦の品種を世界に広め、それによって1960年代に予測されていた食糧危機から人類を救った「緑の革命」の功労者として、1970年にノーベル平和賞を受賞した人物である。

博士は微笑をたたえながら、いかにも学者らしいゆとりとした口ぶりで話し始めた。

今日この地で、私達は稲塚権次郎博士の生家を訪れるという素晴らしい経験をさせて頂きました。先生の業績は、一人私のみならず全世界の人々が、高く評価し心から感謝しているものであります。多くの国々で食糧問題の解決を可能にしてくださったのも、稲塚博士の御貢献があればこそなのです。

「1. part」

ポログ博士の立つ演壇には、青々とした小麦の鉢が飾られていた。これこそ稲塚権次郎が昭和10(1935)年に世に送り出した「小麦農林10号」であり、ポログ博士はこれを改良して世界に広めたのであった。

2. メンデルの遺伝学による増産

この南砺の地で、稲塚権次郎は明治30(1897)年に生まれた。高等小学校を卒業した後、富山県立農学校に入学。農学校までは往復4時間の距離を歩いて通ったが、リュックを背負い、本を開いて勉強しながら通った。稲塚は江戸時代に農村開発に力を尽くした二宮尊徳の教え、報徳教の本を愛読していた。

大正3(1914)年、17歳の権次郎は農学校を首席で卒業し、先生の勧めで東京帝国大学農科大学に進んだ。家は貧しかったが、先生や本家の当主に

「国際派日本人養成講座」(http://www2s.biglobe.ne.jp/~nippon/jogindex.htm)では、毎週、新しいコラムが紹介されています。

※これを読めば自然に、日本の文化や歴史に関心ももてるような話を毎週掲載しています。より多くの二世の方や日本語学習者に読んでもらい、少しでも日本に興味を持ってもらえるよう、最寄りの日本語学校や日系団体の掲示板に張ったり、普段は邦字紙を読んでいない兄弟や子や孫などに記事を紹介してください。(ニッケイ新聞編集部)



稲塚権次郎

昭和13(1938)年、権次郎は北京の華北産業科学研究所に転任した。この研究所は外務省が義和団事件の賠償金の還元策として、広く華北の産業発展を目指したもので、とりあえず農業部を設置して、食糧増産および農民の福利のための試験研究を行った。日本人職員も東大、北大、九大などから人材を集め、326人にのぼっていた。

昭和13(1938)年、権次郎は北京の華北産業科学研究所に転任した。この研究所は外務省が義和団事件の賠償金の還元策として、広く華北の産業発展を目指したもので、とりあえず農業部を設置して、食糧増産および農民の福利のための試験研究を行った。日本人職員も東大、北大、九大などから人材を集め、326人にのぼっていた。

この対面から7年後の昭和63(1988)年、91歳の権次郎は亡くなる直前に残した回顧録の中で、次のように述べている。

4. 戦後の食糧危機を救った「農林1号」

権次郎は、昭和13(1938)年に改定する作業を進めた。大正15(1926)年に新品種の第四世代まで育てたところで、岩手県農事試験場に転勤となったが、その後、新潟県農事試験場の並河成資・主任技師らがこれを引き継いで「水稻農林1号」として完成させた。

3. 農家が歓迎した「陸羽132号」

大正8(1919)年、22歳の権次郎は、秋田の陸羽子場に赴任した。東北は稲作の北限にあり、単位面積当たりの収量は畿内の6割程度に過ぎず、冷夏となれば凶作に見舞われていた。秋田の陸羽子場はまさに米増産のフロンティアであった。

5. 「まるで当時の日本の農民のような小麦」

この「水稻農林1号」は味も良く、それまで「まずい」と言われていた越後米の汚名を一挙に返上した。そしておいしい越後米の元祖として、今日のコシヒカリやササニシキなどの子孫を生み出している。

大正15(1926)年頃、盛岡高等農林学校の

8. 「緑の革命」

ポログ博士は国連農業機関の使節として、発展途上国の農業を視察し、農業研究者が不足していることを知った。そこで各国から研究者をメキシコに呼び寄せ、訓練をした後に、「農林10号」から改良した種子を持ち帰らせる制度を始めた。

「この「種子」を「ゆめ」という言葉に替えても良いだろう。一つの「ゆめ」が多くなるとの出会いを通じて、世界を駆けめぐり、世界を変えていったのである。

7. 「小麦農林10号」アメリカに渡る

昭和20(1945)年12月、権次郎がまた中国にいた頃、アメリカ人農学者S・C・サーモンが来日した。サーモン博士は占領軍の農業顧問として日本の農業の調査を行い、その過程で「小麦農林10号」の存在を知った。そして自ら岩手県立農事試験場に出向き、収穫前の「農林10号」を見た。

アメリカの小麦は通常15×20センチ間隔で植えられるのに、「小麦農林10号」は50センチも離して植えてあった。それでもたわな実をつけているので、地面が見えないほどだった。さらに背丈がわずか60センチしかなく、倒れる事もなかった。

9. 一つの「ゆめ」が世界を変えていった

昭和56(1981)年、日本育種学会の大会にポログ博士と権次郎が招かれて、それぞれ講演を行った。

ポログ博士は「農林10号」の種子をアメリカに持ち帰り、1年間栽培して、全米各州に配布した。それを受け取った一人がワシントン州の農業試験場に勤めるO・A・フォーゲル博士だった。フォーゲル博士は「農林10号」をアメリカの品種と交配して、新品種「ゲインズ」を作り出した。「ゲインズ」が農家に配布されると、各地で驚異的な出来高をあげた。

その結果、最近約15年の気温上昇の停滞や、1970年代後半から約20年続いた急速な温暖化をほぼ観測通りに再現することに成功。「気温上昇が鈍ったのは海面水温が低温傾向にあるのと関係している」と結論付けた。

海面低水温で温暖化鈍る 将来、急上昇の恐れも

【共同】熱帯域の太平洋の海面水温がこの10年ほど低い傾向にあるため、今世紀に入った世界の平均気温の上昇ペースが鈍っているとする研究結果を、米カリフォルニア大サンディエゴ校の小坂優研究員らのチームが20日までまとめた。海面水温は将来、再び高温傾向になる可能性が高く、その時は、地球

海面水温は将来、再び高温傾向になる可能性が高く、その時は、地球

食へ損なつたマカロナーダ(1)

レジストロ 池部パウロ

マカロナーダの歴史は、1270年頃、日本製の平安時代にイタリアの有名な探検家、マルコ・ポーロが航海中訪れた中国で、どんやそばを試し食事に作りだしたとされている。マカロナーダは、イタリアの北部、ピエモンテ州のトリノに由来する。その由来は不明の様に思われる。だがこのタイトル争いには、一つの理由が秘められているから。

街のねずみ

サンパウロ 鎌谷 曜

13世紀の末、1270年頃、日本製の平安時代にイタリアの有名な探検家、マルコ・ポーロが航海中訪れた中国で、どんやそばを試し食事に作りだしたとされている。マカロナーダは、イタリアの北部、ピエモンテ州のトリノに由来する。その由来は不明の様に思われる。だがこのタイトル争いには、一つの理由が秘められているから。

日使農業開発協会の想い出(2)

サンパウロ 勝田 修一

このセラード農業開発協会は、日本でも非常に重要な役割を果たしている。この協会の活動は、日本の農業技術とブラジルの農業技術を結びつけることに貢献している。この協会の活動は、日本の農業技術とブラジルの農業技術を結びつけることに貢献している。

オリンピック追憶

サンパウロ 秘記 寿子

2020年のオリンピック開催国が日本に決まりました。9月7日の夕方、決定しました。これは、日本の歴史の中で重要な瞬間です。この瞬間は、日本の歴史の中で重要な瞬間です。

子ども移民の教育問題

アルゼンチン 上原 昌勝

僕は、アルゼンチンに住んでいる上原昌勝と申します。64歳、自営業です。アルゼンチンで結婚して3人の娘(20、18、16歳)がいます。両親は10年くらい前に日本から出た時、その時13歳でしたが、その時から9人家族の長男として、今までやってきたこと、家族への滅私奉公で



家を建てた頃、我が家の近くに大きなバラックがあり、ノルチスタの男達が8人位で住んでいました。中では、荒い山師の仕事をしていた親分の各々が、ゴキブリやゴキブリの卵を食べていた。ゴキブリの卵を食べていた。ゴキブリの卵を食べていた。

長崎の異文化交流の歴史(D)

サンローレンソ・セラー 丹生 登

1823年ドイツまで、外国人の出島以外での行動は制限されていた。しかし、彼の卓越した行動範囲が、近頃の海軍に驚かされた。彼の卓越した行動範囲が、近頃の海軍に驚かされた。

想い出を暖めて

クリチーバ 田口さくお

高給邸の建ち並ぶ、秋の空に雲一つなく、爽やかな少し肌寒く感じ、焼肉「バー・ペイキ」だが、ブラジルは、この日、嫁の義姉と、本当に良いところだと、義兄の誕生日の祝があつた。何時もの通り、例の如くシユラスコ、ブラジルでは一番簡単で、一番私時間は来るまで、

おねがい

投稿者におねがい

投稿者には必ずふりがなをつけて下さい。紙面の都合で、投稿の一部が削除されることがあります。ご了承ください。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

「天命」とも言うので、人生には運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。運不運と言うものがある。

